

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業名 一般国道12号 <small>あさひかわ</small> 旭川新道	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点 自：北海道旭川市神居町台場 至：北海道旭川市永山		延長 14.1km		
事業概要 一般国道12号は、北海道の中核都市である札幌市を起点に道北の中核都市である旭川市に至る延長約145kmの主要幹線道路であり、道央圏と道北圏を連絡する重要な路線である。 旭川新道は、旭川市中心部の交通混雑の緩和や北海道縦貫自動車道旭川鷹栖インターチェンジへのアクセス向上を図るために計画された延長14.1kmのバイパス事業である。				
S50年度事業化		S51年度都市計画決定	S53年度用地着手	S53年度工事着手
全体事業費		約584億円	事業進捗率	92%
計画交通量		32,800台/日		
費用対効果分析結果	B/C ： (事業全体) 1.8 (残事業) 1.7	総費用 ：(残事業)/(事業全体) 37/1,047億円 (事業費：37/1,008億円) (維持管理費：0/39億円)	総便益 ：(残事業)/(事業全体) 64/1,898億円 (走行時間短縮便益：62/1,801億円) (走行経費減少便益：0/48億円) (交通事故減少便益：1/49億円)	基準年 ： 平成16年
感度分析の結果 事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C = 2.0 (交通量+10%) B/C = 1.6 (交通量-10%) 事業費変動：B/C = 1.7 (事業費+10%) B/C = 1.9 (事業費-10%) 事業期間変動：B/C = 1.4 (事業期間+20%) B/C = 2.1 (事業期間-20%)				
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる） ・都市の再生（広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する） ・物流効率化の支援（農林産品の流通の利便性向上が見込まれる） ・個性ある地域の形成（拠点プロジェクト、地域連携プロジェクトを支援する） 他4項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見 旭川市中心部のバイパス機能を果たすとして、旭川市をはじめとする関係4市18町2村の首長で構成される上川地方総合開発期成会より事業促進の要望を受けている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成17年7月に物流基地の整備が開始された。 ・平成16年4月に大規模商業施設が沿線に立地した。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 全線にわたり暫定供用しており、引き継ぎ残り1.9km区間について4車線化工事を進める。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 残区間は、住宅地域の直下を通過する大規模トンネル(L=799m)の整備が必要であり、全線の完成供用は平成20年代初頭の予定である。				
施設の構造や工法の変更等 再生材の活用、建設発生土の有効利用、低騒音舗装の実施、長寿命化舗装の採用等によりコスト削減を図っている。				
対応方針 事業継続				
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図 				

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。